様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２７ 年　 ６ 月　 ４ 日現在

機関番号：１３７０１
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2010～2014
課題番号：２２５２０１３６

研究課題名（和文）具象木彫表現における日本のかたちの研究

研究課題名（英文）Research on Japanese stile in wood sculpture.

研究代表者
河西　栄二（KASAI, Eiji）

岐阜大学・教育学部・准教授

研究者番号：６０３０２４０２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,800,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本の具象木彫表現において独特な表現様式を作り上げた６作家（内藤堯雄、橋本平八、新海竹蔵、桜井祐一、円空、木喰）に焦点を当て、作品実見研究や資料収集に取り組み造形的検証を行った。樹種・木取りなど材料について、一木・寄木・道具・彫り方など技法について、モデル・形態・プロポーション・テーマ・精神性などの表現について分析し、それらの作品に潜む「日本のかたち」、土着的、原始的な独自の美のありようについて研究を行った。そして、その成果を基に自身での木彫制作研究にも取り組んだ。

研究成果の概要（英文）：This study , Japan concrete 6 writer who created a unique presentation styles in wood carving representation (akao Naito, Heihachi Hashimoto, Takezo Shinkai, Yuichi Sakurai, Enku, Mokujiki) focuses on works empirical research and materials We went efforts figurative verification to collection . For materials such as tree species , Kidori , for techniques such as single- wood, parquet , tools, carving hand, were analyzed for elements such as the representation , such as the model form Proportion theme spirituality , lurking in their work , " the form of Japan" , indigenous , we have studied the Arisama primitive own beauty . And , we 're also working in wood carving production research in their own based on the results .

研究分野：人文学、芸術学・芸術史・芸術一般、芸術諸学、彫刻、木彫

キーワード：木彫　彫刻　内藤堯雄　橋本平八　新海竹蔵　桜井祐一　円空　木喰

１．研究開始当初の背景

研究代表者は木彫における制作研究を行い、新制作展（新制作協会彫刻部）を中心に発表を続けている。研究開始時の制作研究テーマは、『具象木彫表現における根源的な美のかたち』についてである。

2007 年には国立近代美術館等で『日本彫刻の近代展』、兵庫明石市立文化博物館等で『木喰展』、2006 年には東京国立博物館において『仏像　一木にこめられた祈り展』が開催されるなど、これまであまり注目される機会の少なかった近代彫刻の作家や円空、木喰の仏像等にも光が当てられつつある。

これらの研究資料等も増えており、研究を進める上での機運は高まっている。しかし日本の近現代代彫刻の流れの中で、本研究で扱う作家達は影の存在とでもいうべき位置にあり、既刊の研究論文や書籍、展覧会の数も決して多いとはいえない。特に内藤尭雄に関しては、全く研究が進んでいない状況である。その原因のひとつとして、今までの日本彫刻の流れがフランス・イタリア・イギリス等の洗練されたフォルムを基盤とした西洋的な様式に基づいたものであったことがあげられる。さらに、現代美術の台頭の中で彫刻的な価値は見失われつつあり、現在注目を浴びる彫刻作品の多くは、技の切れを前面に出した技巧的なもの、あるいは発想重視のものが多く、表層的な表現に偏りがちである。これは現代社会の表面的な効果を評価する傾向とよく似ている。このような状況の中で本研究はそれらとは逆の方向を向いていることに価値があり、今後の彫刻表現に残すべき重要な内容のものとして、その研究の意義は高いと考える。

２．研究の目的

本研究は、日本の具象木彫表現において異端とでもいうべき独自の表現様式を作り上げた作家を抽出し、それらの作品について造形的な検証を行うものである。具体的には橋本平八、新海竹蔵、桜井祐一、内藤尭雄などの近代の物故作家を中心に取り上げる。また円空や木喰の仏像等にもさかのぼり考察を行い、時代の主流の様式とは外れたところにある土着的、原始的な独自の美のありようについての基礎的な研究を進める。

上記の作家達の求めた美は、いずれもヨーロッパ移入の洗練された優美・端正なファルムとは違う方向のものといえる。

それらは、稚拙、素朴などの形容を与えられがちであるが、未熟な表現の結果とは違うものであり、確固とした各自の表現形式の表れである。それぞれの作家作品の根底に共通するものとして、各時代様式の模倣や他作家の影響を超えた根源的な美としての『異端の美－日本のかたち』を認めることができる。本研究はこれらの作家、作品の研究と共に実際に自ら制作を行いながら研究を進めることに特徴がある。作品や文献などの資料調査を踏まえたうえで、実制作でその検証を行うものである。

３．研究の方法

（１）調査活動

①作家研究

作家研究では、焦点を当てた６作家（内藤尭雄、橋本平八、新海竹蔵、桜井祐一、円空、木喰）をはじめ、同時代の他の木彫表現のありかたをも含めた幅広い資料収集、文献分析研究を行い、各作家作品の傾向の変移や心情の変化を推考するとともに、実地作品調査研究を行う。具体的には、作品に対して他角度からのスケッチなどによる詳細な観察を行い、展覧会図録などではわからない面の設定の様子や道具や技法のあり方について調べていく。

②美術公募団体の展開の様子や大学等組織の彫塑表現傾向調査

公募団体については、特に再興院展に近代彫刻の鍵があると考え、院展 100 年史から新海竹蔵と石井鶴三、平櫛田中、佐藤朝山を中心に彫刻関連の資料収集、調査を進めた。他にも新制作協会の資料の収集を進めた。また主要な美術大学の教師の存在、教育の方針などによる彫塑表現の傾向についても考える必要性を感じ、各美術大学（東京芸大、造形大、多摩美、武蔵野美、東京教育大）の記念誌や記録集を収集し教授陣のメンバー構成や卒業生の作品の傾向を調べた。さらに貴重書のアルス大美術講座を入手し、当時の技法や彫刻の考え方についても研究を進めた。

③木材収集・分析調査

様々な樹種の木彫用材（樟丸太、桂、欅、楢、チーク、イチョウなど）の入手、及び貴重樹種（白檀、カヤ、コクタン）の木片の資料収集、葉や幹、細胞片、X 線などによる樹種特定の方法調査（京大森林講座参加）などを調べるとともに、それらの樹種を彫り、制作を行い、樹種の違いによる表現の効果等を検討した。

（２）実験制作活動（制作研究）

木彫による実験制作を継続して行い、独自の表現としての異端の美の深まりを求めて制作研究を行う。

４．研究成果

（１）調査活動

①作家研究

作家研究では、同時代の他の木彫表現のありかたをも含めた幅広い資料収集、文献分析研究を行った。

●橋本平八

・貴重書である「橋本平八作品集」（昭和12年　日本美術院）を国会図書館にて実見し、その全複写を入手した。また「純粋彫刻論」の原著や復刻版を入手し、平八の独自の彫刻論について研究を進めた。

・東京芸術大学美術館所蔵の橋本平八の木彫

作品15点のポジフィルムを借用し、資料として収集した。
・三重県立美術館、及び世田谷美術館において開催された「橋本平八と北園克衛展」や東京芸大で展覧会場に複数回訪れ、熟見とスケッチによる研究を進めた。現存するほとんどの橋本平八作品の実見調査を詳細に行うことができ、《少年裸像》のナタ跡が常に水平に入っていることを発見するなど、多くの収穫を得た。
・橋本平八研究の第一人者である三重県立美術館副館長、毛利伊知郎氏による作品解説の機会を得た。平八の作品制作は、「一木による造形が基本で、寄木や矧木は行わない制作理念を持っていた。それは用材の姿形をも彷彿とさせるもので、自然がつくり出した木材に潜む自然界固有の力を尊重するという平八の自然観（毛利、橋本平八-作品と思想，橋本平八と北園克衛展）」によるものであった。
・伊勢市朝熊にある生家やアトリエ跡を見学し、実の娘さんより当時のアトリエの様子や平八の話を聞くことができたことは特筆すべき成果として挙げられる。
・橋本平八について5月15日と10月29日に生家にて開催された「偲ぶ会」に参加し、平八の研究者との意見交換や生家に残された作りかけの作品の写真撮影、資料として保管していた猫の頭蓋骨などを実見し撮影した。また遺族から当時の様子の聞き取り調査や平八の墓参りを行った。さらに生活や思想の背景となる朝熊山や伊勢神宮の取材も実施した。橋本平八の調査に関しては、作品の実見、遺族や研究者の話を聞く、資料収集、解像度の高いデータの入手など、まとまった調査を行うことができた。
●内藤堯雄
内藤堯雄の調査は、先行研究が全くない中、福井県立美術館の全面的な協力を得て、福井県立美術館の収蔵作品実見や資料収集を初め，所蔵先の作品調査、生家での聞き取り調査や資料収集などを行う事が出来た。また内藤堯雄関連の新聞記事を国会図書館等において収集し、整理した。さらに福井県図書館で福井県文化史等の過去の内藤の福井県内での活躍状況の資料収集、新彫会会長河内宗利氏や河村幹夫氏に内藤氏との関わりや制作の様子などの聞き取り調査を実施することができた。こうした調査の成果として、2015年3月岐阜大学教育学部研究報告人文科学第 63 巻 2 号に紀要「彫刻家　内藤堯雄の基礎調査（１）-具象木彫表現における日本のかたちの研究-」を発表した。内藤は，人間の原初的な精神性を形にすることを目指し、「罔象女」「玄牝」「座敷童」などの神話や民話をテーマに、異形の人物表現を行った。その技法は一見、乱暴で場当たり的な制作態度に思えるが，過去の制作風景写真などを分析すると、塑造粘土によるエスキースで見いだした素朴な形体を、仏師次代に身につけた伝統的な木彫技法による木取り法で、緻密にプロポーションを再現した計画的な表現であることを指摘した。研究４年目には、内藤の個展を開催し関わってきた大阪の高宮画廊から内藤堯雄の木彫作品 4 点絵画作品 36 点の寄贈を受け、実見研究を進めると共に、それらの作品と筆者作品による展覧会「彫刻家　内藤尭雄・河西栄二作品展」を岐阜県大垣市の岐阜大学旧早野邸セミナーハウスにて、及び福井県立美術館において「新彫会彫刻展」を行い、内藤作品を広く公開することができた。
●桜井祐一
桜井祐一に関しては、数少ない作品集や図録の収集を進めた。研究 4 年目には、桜井祐一の息子さんに会い、桜井祐一の作家資料や先行研究について話を伺った。研究最終年の 2014 年 12 月 6 日には、山形県、米沢市上杉博物館「生誕 100 年彫刻家櫻井祐一木彫・ブロンズの世界」展実見、作品調査。また同日ギャラリートーク「桜井祐一のしごと」参加、桜井直樹氏、峯田敏郎氏、佐藤繁氏の話を伺うことができた。
●新海竹蔵については、貴重資料の収集を進めるとともに、山形美術館、新海竹太郎、新海竹蔵彫刻室（第７展示室別館２階）の実見調査、資料収集を行った。
●円空については、埼玉県立歴史と民族の博物館開催の特別展「円空こころを刻む―埼玉の諸像を中心に―」にて埼玉県での円空の活動記録となる作品の詳細な実見調査を行った。また、関市円空館、関市洞戸円空記念館（高賀神社）、東京国立博物館「飛騨の円空展-千光寺とその周辺の足跡-」において熟見と資料収集。9 月 29 日岐阜県白鳥神社にて円空作十一面観音（秘仏）の特別公開展を見た。また同日白鳥文化ホールにて開催された公開記念シンポジウムにおいて、梅原猛氏の記念講演や新日曜美術館過去番組「円空、仏像革命」上映鑑賞、元 NHK プロデューサー水谷慶氏ら NHK の円空番組制作担当者らによるｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑを聞いた。さらに愛知県津島観音堂にて円空千体仏の実見調査実施した。
●木喰については、山梨県身延町の木喰微笑館、を複数回訪問し資料収集を行った。
●その他の作家調査では、神奈川県立美術館「辻晋堂展」主要木彫作品熟見とスケッチ調査、佐藤朝山、平櫛田中展覧会図録資料収集、平等院鳳凰堂にて定朝による阿弥陀如来像、及び雲中供養菩薩、滋賀県高月度岸寺の十一面観音立像、滋賀県ＭＩＨＯミュージアムにおいて土偶・コスモス展を熟見調査、熱海にて澤田政廣美術館、三重県立美術館平櫛田中展、小平市平櫛田中館、井の頭自然文化園北村西望彫刻園、碌山美術館にて荻原守衛、石井鶴三等の木彫作品熟見とスケッチ調査、メナード美術館にて高村光太郎作「栄螺」「鯰」実見、過去の特別企画展冊子『高村光太郎「栄螺と鯰」－メナード美術館所蔵作品－』のコピー収集。同日碧南市藤井達吉現代美術館の

「彫刻家高村光太郎展」にて光太郎や佐藤朝山の木彫作品実見などを実施した。
現代木彫作家では、鎌倉、神奈川県立美術館企画展の江口週彫刻展、銀座西村画廊にて三沢厚彦新作展、千葉市美術館において須田悦弘展、棚田康司展、愛知県メナード美術館において舟越桂展の実見調査・資料収集実施した。
　これらの調査を基に、各作家作品の傾向の変移や心情の変化を推考するとともに、実地作品調査研究を行うことで『異端の美-日本のかたち』の造形的なありようを明らかにするべく検討を進めた。
　造形要素としては面の設定や量の配分、それらの構成について制作者としての立場から検討を進めた。素材や道具、技法と表現の関連、全体のフォルムとディテールのあり方などについても研究した。
　②美術公募団体の展開の様子や大学等組織の彫塑表現傾向調査
・院展100年史から新海竹蔵と石井鶴三、平櫛田中、佐藤朝山を中心に彫刻関連の資料収集、調査を進めた。他にも新制作協会の資料を収集するとともに新制作協会にて開催されたシンポジウム、「新制作を考える-時代と表現‐公募展とは？」にシンポジストとして参加した。また、各美術大学（東京芸大、造形大、多摩美、武蔵野美、東京教育大）の記念誌や記録集を収集し貴重書のアルス大美術講座を入手③を行った。教授陣のメンバー構成や卒業生の作品の傾向を調べた。・国画会展（六本木）、公募展セレクション（都美館）、二科会、新制作展、行動展、二紀展、日展にて現代の木彫表現についての調査。また東京造形大学にて木彫担当の田村史郎退官記念展を熟見し、田村氏作成の木彫の授業テキストを収集した。また多摩美術大学にて木彫担当の竹田光幸氏によるテキスト「木彫刻制作」も収集した。
　新制作展創設期の図録収集を行い、新制作協会事務所の協力を得て、およそ 75 年間の展覧会の内、60 年分の図録を実見しデジタルデータとして収集した。
また新制作協会事務所の協力を得て新制作展創設期のスクラップブックを借用し、近代美術史上の貴重資料の実見・整理・分析を行った。
　今後もこれらの資料を基に当時の技法や彫刻の考え方についても研究を進めていきたいと考えている。
　③木材収集・分析調査
・様々な樹種の木彫用材（樟丸太、桂、欅、檜、楢、チーク、イチョウ、木彫材料として貴重な榧（カヤ）材の丸太をなど）入手、及び貴重樹種（白檀、カヤ、コクタン）の木片の資料収集、葉や幹、細胞片、X 線などによる樹種特定の方法を調査した（京大森林講座参加）。
・筑波森林総合研究所にて主要木彫用材となる様々な樹の観察調査を行った。また苗木（樟、桂、欅、楢、イチョウ、カヤ、檜など）を入手し、葉や幹などの特徴の観察、また木彫材料丸太の乾燥状況、経年変化の観察調査、及び苗木の葉や幹の生育状況などの観察研究を継続している。
（２）実験制作活動（制作研究）
・自身の木彫作品制作研究では、樹種や道具との関係によるかたちの変化や野外展示の効果などを確かめた。他にも複数パーツによる寄木表現との比較研究として、一木での表現に取り組んだ。表面や部分の描写から離れ、求心的な簡潔なかたちの追及を試みた。また新たなテクスチャーの効果についての実験として作品の一部表面に特殊な叩き道具を使用した。さらに欅材の寄木表現による座像や、タブ材の寄木表現による横臥像、クス材の寄木表現による立像等を制作し「新制作展」（国立新美術館等）において発表した。他にも「緑の中の彫刻展」（ギャラリー華、東京都麻布）、「リアリズムの深層展」（極小美術館、岐阜県池田町）、「次代を担う彫刻家たち展」（現代彫刻美術館、東京都目黒区）、「彫刻家　内藤堯雄・河西栄二作品展」（岐阜大学旧早野邸セミナーハウス、岐阜県大垣市）、「新彫会彫刻展」（福井県立美術館）などで木彫作品を発表した。
　造形要素のひとつである面の設定に焦点をあて、かたちの単純化から生まれる素朴で土着的・根源的な表現に迫ることを目指した。
　今後も表現内容について、観念的な表現に陥らずに、大胆なデフォルメを伴った量の扱いを心がけ、より充実したものを目指して研究を進めて行くつもりである。

　本研究で扱った橋本平八、新海竹蔵、桜井祐一、内藤堯雄等の作家は、日本の近代彫刻史において重要な位置にあるにも関わらず、現在までにさほど大きな研究対象とされてこなかった。本研究は、そうした作家に再度光を当てると共に、それぞれの作家の根底にある共通点として『異端の美-日本のかたち』を示し、そこに表されたかたちの魅力を明らかにしてきた。そこで見出される美は、個々の独自性に裏づけられたものでありながら普遍的な価値をもつものである。大きな潔い面により表現されたフォルムには、『形態をこわし、くずす』中から純化させたかたちが感じられた。
　またそれらの日本のかたちには、世界に共通する普遍の美のかたちを見出すことができるのではないかとも考えている。将来的には古代メキシコやアジアの出土品などとの関連まで研究を繋げられると考えているが、それらをあくまでも制作者の対場として造形的な視点から研究を進めたことに本研究の意義があると考える。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）
〔雑誌論文〕（計　１件）
河西栄二、彫刻家　内藤堯雄の基礎調査（１）-具象木彫表現における日本のかたちの研究-、岐阜大学教育学部研究報告人文科学、査読無、第63巻2号、2015年、pp95-112
http://www.ed.gifu-u.ac.jp/kyoiku/info/zinbun/index.html
〔学会発表〕（計　０件）
〔図書〕（計　０件）
〔産業財産権〕
○出願状況（計　０件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：
○取得状況（計　０件）
名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：
〔その他〕
○展覧会開催・作品発表（計　１８件）
Ｈ２６
1. 彫刻作品（44）《ヒト》H35×W15×D3cm 素材:木(樟),彩色，他に3作品再出品，新彫会彫刻展　福井県立美術館（特別出品）
展覧会開催・作品発表（計　18件）
2. 河西栄二　河西木彫作品 6 点、内藤堯雄木彫作品 4 点、平面作品 15 点　彫刻家内藤堯雄・河西栄二作品展　岐阜大学旧早野邸セミナーハウス
3. 彫刻作品《ヒト》H30×W30×D19 cm, 木(榧),彩色,
彫刻作品《ヒト》H25×W20×D15 cm, 木(樟),彩色，緑の中の小さな彫刻展 voi.3，ギャラリー華(東京都港区南麻布)
4. 彫刻作品《ヒト》H205×W90×D80cm, 木(樟),彩色　第 78 回新制作展，六本木国立新美術館，京都展
5. 彫刻作品《ヒト》２点組 H75×W110×D100cm、H110×W60×D60 cm, 寄木、素材:木(タモ、欅),彩色，公募団体ベストセレクション美術２０１４

Ｈ２５
6. 彫刻作品《ヒト》H70×W50×D55 cm 木(樟)・彩色"　新制作会員展（ｾﾝﾄﾗﾙ・ｱｰﾄｷﾞｬﾗﾘｰ　愛知県名古屋市）
7. 河西栄二　"彫刻作品《ヒト》H230×W90×D80 cm, 木(樟)・彩色，彫刻作品《ヒト》H200×W70×D120 cm 木(樟)・彩色"　第 5 回次代を担う彫刻家たち展　現代彫刻美術館（東京都目黒区）
8. 彫刻作品《ヒト》H70×W50×D55 cm, 木(樟)・彩色，池田山麓現代美術展 2013「リアリズムの深層」極小美術館（岐阜県池田町）
9. 河西栄二　彫刻作品《ヒト》H60×W28×D22 cm,木(欅),彩色，緑の中の小さな彫刻展，ギャラリー華(東京都港区南麻布)
10. 彫刻作品《ヒト》H75×W110×D100cm, 木(タモ),彩色，第 77 回新制作展，六本木国立新美術館
Ｈ２４
11. 河西栄二，彫刻作品《ヒト》H45×W25×D25 cm，木(欅),彩色，緑の中の小さな彫刻展，ギャラリー華(東京都港区南麻布)
12. 彫刻作品《ヒト》H145×W60×D70cm，木(欅),彩色，第 76 回新制作展,六本木国立新美術館,
Ｈ２３
13. 彫刻作品『ヒト』樟に彩色、230×90×80 cm、2011 年 9 月、第 75 回新制作展京都展（巡回）（京都市・京都市美術館）
14. 彫刻作品『ヒト』樟に彩色、230×90×80 cm、2011 年 9 月、第 75 回新制作展（六本木・国立新美術館）
Ｈ２２
15. 彫刻作品『ヒト』樟に彩色、95×50×50 cm、2011 年２月、新制作会員展（ｾﾝﾄﾗﾙ・ｱｰﾄｷﾞｬﾗﾘｰ，愛知県名古屋市）
16. 彫刻作品『抱く』樟に彩色、210×110×100 cm、2001 年 9 月,りんくう街中彫刻展（りんくう常滑駅南地区，愛知県常滑）
17. 河西栄二彫刻展　第 3 回岐阜ｱｰﾄﾌｫｰﾗﾑ上宮寺（岐阜市）（彫刻作品『ヒト』樟に彩色、45×20×10、2010 年 10 月）を含む 14 点の彫刻作品を展示
18. 彫刻作品『ヒト』樟に彩色、190×120×150 cm、2010 年 9 月、第 74 回新制作展（六本木・国立新美術館）
○ホームページ等
無
６．研究組織
(1)研究代表者
河西栄二（KASAI,Eiji）岐阜大学・教育学部・准教授
　研究者番号：60302402
(2)研究分担者
無　　（　　）
　研究者番号：
(3)連携研究者
無（　　）
　研究者番号：